

奨学生に30人内定

伊藤青少年育成奨学会が面接

伊藤青少年育成奨学会(田代久美子理事長)の2020年度の奨学金給付事業の奨学生を決める面接が、4日間の日程で多治見市十九田町のバロー文化ホールで行われ、30人の内定者が決まった。

同会はバローホールディングス創業者の故伊藤喜美氏の個人資産の一部を元に設立。2000年度から大学進学者に年間36万円の奨

学金を給付している。同事業の年間給付額は4学年の約150人に対して計約6千万円。19年度までに延べ563人が給付を受けている。

20年度は県内在住、出身の大学進学希望者113人が応募。自己PRや小論文の1次選考を通過した大学合格者53人が、田代理事長らによる2次選考の面接に臨み、30人が奨学生に内定

した。

奨学生の認定式は今年8月に恵那市で行われる。

(山本貴史)



面接を受ける大学合格者＝多治見市十九田町、バロー文化ホール